

## I 学校の概要（立地状況等含む）

平成17年に旧吉松町と旧栗野町が合併し湧水町となった。旧吉松町全域が校区にあたる。吉松は県北端に位置し、宮崎県えびの市と隣接する。

校区の中央を南北に川内川が流れ、平成18年7月の県北部豪雨災害により、校舎も床上浸水が1.5mという甚大な被害に遭い、現在の校舎となった。令和3年度の全児童数は89人、学級数は8学級である。

## II 引き渡し訓練の取組の概要

### 1 取組のねらい、事態等

#### (1) ねらい

重大な災害や事件等が発生し、集団下校では危険を回避できないと校長が判断した場合、保護者が迎えに来て学校で児童を引き渡す。

#### (2) 児童引渡しを基本とする事態

##### ア 災害

- ・ 大きな地震が発生し、学校や地域に被害が出たとき
- ・ 校舎が火災等に見舞われたとき
- ・ 大雨により、安全に下校できないと判断されるとき

##### イ 不審者侵入等

- ・ 校地内に不審者が侵入し、児童・職員に危害が及んだとき、もしくは及ぶ危険性が高いとき
- ・ 学区内に不審者が出没し、災害があったり、児童に危害が及ぶ事態が予想されるとき

##### ウ その他

学校長が、児童引渡しが必要と判断したとき

### 2 児童引き渡し訓練の実際

- (1) 災害・事件等の緊急事態発生
- (2) 児童は安全な避難場所（各地域教室）へ移動し待機する。
- (3) 引受人へ電話及びメールで連絡する。
- (4) 引受人は、靴箱入口から入る。
- (5) 引受人は、各班担当職員のチェックを受けて児童を引き取る。
- (6) 引受人は、出口から出る。
- (7) 引受人が来ないか連絡が取れない児童は学校で待機する。

### 3 引渡し訓練実施までに工夫したこと

- (1) 災害発生に備え、地域児童名簿（引渡しカード）を作成し、連絡先を確認した。また、安全確保のため、送迎車の駐車場所及び進行方向も事前に確認を行っている。
- (2) 伊佐・湧水消防組合の方々や役場と連携して、想定される災害等について情報交換を行っている。

## 4 引渡し避難訓練の状況

### (1) 引渡し訓練の実施

- ア 開催期日 令和3年5月7日
- イ 参加者 全児童、保護者
- ウ 参観者 特になし
- エ その他

### (2) 引渡し訓練の実際



【各地域教室で水害の怖さについて話を聞いている場面】



【引受人に児童を引き渡している場面】

## 5 取組の成果と課題

### (1) 成果

- ア 災害発生時、職員と連携しながら、どのように動けばよいかを理解し、子供たちも身を守るための行動ができた。
- イ 事前事後の訓練の在り方について共通理解を行い、振り返る活動を取り入れることや安全かつ適正に避難活動を行うことができた。
- ウ 災害発生時に職員室に本部を置き、ホワイトボードに事故発生の経過を板書することにより、避難方法等について児童たちへの避難を迅速に行うことができた。

### (2) 課題

- ア 保護者と防災マップについて協議する場を設定する必要がある。（防災マップの見直し）
- イ 自分の命を守るための防災コーナーの掲示を工夫する。
- ウ 児童が自らの力で学校内外における生活の様々な危険に気付き、的確な判断によって安全に行動できる能力を身に付けさせる必要がある。
- エ 自分の命を守るために、危機意識を常にもち災害防止体験活動を通して、災害回避方法を身に付けさせる必要がある。